

「ALL DOSHISHA教育推進プログラム」成果・経過報告会
2019年6月20日

アカデミック・ポートフォリオを利用した
セルフ・プロデュース型
キャリア能力開発システムの構築

心理学研究科





1. 本事業の概要

<背景>

大学院生の将来のキャリアは一人ひとり異なっていることから、個々の大学院生が自分に必要とされる力量を定め、その力量を高めるべく主体的にカリキュラム内外の諸活動に従事して、研鑽を積むことが求められる。

本事業では

(1) アカデミック・ポートフォリオを活用した

(2) セルフ・プロデュース型の

(3) キャリア能力開発システム構築 をめざす



＜特徴1＞

アカデミック・ポートフォリオを活用

本事業におけるアカデミック・ポートフォリオとは

大学院生が研究、実践、教育等の諸活動に関する実績資料を、自ら取りまとめ保存した総合的評価資料

単なる自己活動の記録に留まるものではない

＜特徴1＞

アカデミック・ポートフォリオを活用

- 資料に基づき 自己省察し、他者評価を受けることを通じて、自己のキャリア能力を高めるために利用
- 指導教員とのコミュニケーション・ツールとして
 - ・ 年度始めにキャリア・ビジョンやキャリア能力の到達度目標などを指導教員と共有
 - ・ 年度終わりにその年度の振り返りを共有
 - ⇒ 研究指導、実践指導等に役立ててもらおう
- 次のキャリアを目指す際の業績評価資料となる

セルフ・プロデュース型
キャリア能力開発システム

a. キャリア能力の到達度目標を設定

大学院生は自分のキャリア・ビジョンに応じて
そのビジョンに適うキャリア能力を設定し、
その年度における各キャリア能力の具体的到達目標を決める

アカデミック・ポートフォリオ導入
研修会開催

セルフ・プロデュース型
キャリア能力開発システム

a. キャリア能力の到達度目標を設定

b. キャリア能力を
向上させるための
活動に従事

活動支援
諸活動にかかる経費補助

- ・研究会参加
- ・フィールドワーク
- ・授業内での発表
- ・自主勉強会の開催
- ・学会発表
- ・論文執筆 等々

セルフ・プロデュース型
キャリア能力開発システム

a. キャリア能力の到達度目標を設定

b. キャリア能力を
向上させるための
活動に従事

c. アカデミック・
ポートフォリオの作成、
成果の発信

活動の成果を

- ・紙媒体としてファイルに保存
(一次保存)
- ・電子ファイルに保存 (二次保存)
- ・Web上に公開 (発信)

eポートフォリオの構築

セルフ・プロデュース型
キャリア能力開発システム

a. キャリア能力の到達度目標を設定

b. キャリア能力を
向上させるための
活動に従事

c. アカデミック・
ポートフォリオの作成、
成果の発信

d. 各キャリア能力の到達度を
自己評価・相互評価

次年度へ

年度末に、アカデミック・ポートフォリオに基づき、
キャリア能力の到達度を自己評価・相互評価することを通して、
次年度のキャリア能力に関する到達目標や従事する活動計画を見直す

振り返りのための研修会開催

セルフ・プロデュース型
キャリア能力開発システム

a. キャリア能力の到達度目標を設定

b. キャリア能力を
向上させるための
活動に従事

c. アカデミック・
ポートフォリオの作成、
成果の発信

d. 各キャリア能力の到達度を
自己評価・相互評価

次年度へ

自己のキャリアを念頭に主体的に学び続けて
未来を切り拓く人物の養成

- 明確なキャリア・ビジョン
- ビジョンに適うキャリア能力
- 学び続けようとする強い意志

を備えた人物

セルフ・プロデュース型
キャリア能力開発システム

a. キャリア能力の到達度目標を設定

b. キャリア能力を
向上させるための
活動に従事

c. アカデミック・
ポートフォリオの作成、
成果の発信

d. 各キャリア能力の到達度を
自己評価・相互評価

次年度へ

自己のキャリアを念頭に主体的に学び続けて
未来を切り拓く人物の養成

他研究科へ波及

e. キャリア能力開発システムのノウハウを公開

＜特徴2＞ セルフ・プロデュース型

1. 一人ひとりが掲げるキャリア・ビジョンに基づくものである
2. キャリア能力を高めるために、どんな活動に従事すべきか自ら考え、自己研鑽を重ねるものである
3. 蓄積されて成果から自己省察を通して、自己成長へとつなげていくものである



本学の教育理念や教育方針とも合致

教育理念「自由主義」: 自治自立の精神をもった人間の育成
教育方針の一つ「一人ひとりの可能性を伸ばす教育」
(VISION2025:「学びのかたちの新展開」より)

＜特徴3＞

プログラムではなくシステムである

- ・本事業は、目標を達成するために細部まで作り込まれたプログラムではない。
- ・アカデミック・ポートフォリオを利用した自己省察ができる仕組みや、活動を支援する制度は準備するが、それは取組みを推進するためのシステム(体系)である。



- 他研究科への波及が容易である
- 自主性(学び続ける意志)の育成につながる